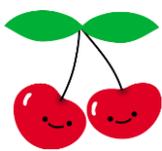


さくらんぼ



～やさしく・かしこく・たくましく～

NO. 7 令和元年11月29日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

園庭の紅葉した木々の葉も散り始め、朝は肌寒く感じられるようになりました。2学期もあとひと月となり、子どもたちは友達関係も広がり、遊びがどんどん楽しくなっているようです。

11月はバザーや研究会など保護者の皆さんに様々なご協力をいただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

バザーでお店屋さんを開くことにつながった星組の一年生との交流での姿やいろいろな自然と親しむ花組と風組の姿をお伝えします。

秋の自然を体いっぱい味わって（花組）

朝晩の寒さを感じつつ日中は暖かな日も多く、おひさまに誘われるように戸外に出て遊びを楽しんでいました。子どもたちは散歩に出かけた時やお休みの日に拾ったどんぐりを大事そうに持って来て、園での遊びに使おうとする姿がありました。どんぐり転がしの場用に用意した透明の筒とペットボトルを使って“どんぐりシャワー”をつくった子どもたち。その中にたくさん入れたどんぐりを降らせて大喜び！「シャワーなら温泉にしてみる？」と尋ねると、子どもたちも「いいね！つくりたい！」と言い、大きなどんぐり温泉が出来上がりました。後日お風呂が埋まるくらいのたくさんのどんぐりを用意すると、「どんぐりがいっぱい！」と嬉しそうに飛び込み、「わーい！ゴロゴロするね。」と両手ですくったり寝転んだりして全身で楽しむ姿がありました。どんぐりの感触やこすれる音、大きさなどを全身で感じて楽しむ様子を見て、どんぐりにも色んな楽しみ方があるのだなと改めて考えさせられたひとときでした。



どんぐり温泉で遊んでいると、桶に見立てた容器にどんぐりを入れて「流していいですか？」と友達の背中にかけたり、「靴と靴下は脱いでから入ってくださいね。」と友達に声をかけたりしていました。友達が楽しそうに遊ぶ姿を見て「いれてー。」「いいよー！」と入ったり代わったりする姿もありました。温泉のイメージがどんどん広がり、友達とのやりとりする言葉も増え、子どもたちの成長を感じて嬉しく思いました。

2学期も後半を迎え、子どもたちの成長を様々な場面で感じる毎

日です。“こんなことがしたい！”と自分の思いをしっかりとって遊ぶ姿。つくったものを遊びの中で使ってみたり、友達をつくるものを見て自分もやってみようしたりと意欲的な姿。「みんなで手を繋いで踊ろうよ。」とみんなと一緒に時間が楽しくなっている姿。子どもたちの言動一つ一つに大きくなったなと嬉しくなります。また、「いれて」「貸して」などのやりとりも増えてきた花組さんですが、まだまだ自分のやりたい気持ちも大きい子どもたち。「だめー！」とつい言葉や態度が先に出てしまうこともあります。「だめ」という言葉に悲しくなることもあります。その裏側にある思いを代弁したり少し待たせたりすると「…代わってあげる。」と待っている友達に気づくように譲ろうとする姿も少しずつ見られるようになってきました。そんなやりとりもとても大切な学びの場で、私たちもお互いの思いを受け止めながら相手の思いも知れるように支えていきたいと思っています。



思いのあふれるエネルギーな子どもたちが、明日はどんな姿を見せてくれるのだろうと日々楽しみにしています。（高橋）

いろんな種をまきました！（風組）

先月、どの冬野菜を植えるか選び、種をまきました。いろいろ選んだ野菜の中で、子どもたちの一番人気はソラマメでした。私は、食べることを楽しみにしているのかなと思い、「ソラマメは、みんなが星組になってから食べることになるよ。」と伝えると子どもたちは「え～！星組！いいよ、いいよ。」と喜び、A君は「一緒に星組になるってことだね。」と楽しみにしていました。育てることを楽しみにする姿に子どもたちの成長を感じました。食いしん坊なのは私だけでした。



11月に入り、「ソラマメ君が昨日より大きくなってる！」「ブロッコリー、なんか伸びてない？」「キャベツの葉っぱが増えたね。」とそれぞれの気づきを言い合うB君とC君とD君。その後3人が「先生！来て！」と保育室に戻ってきて、野菜の成長を報告してくれました。野菜の成長を見ていたんだと知り、何とも言えない温かい気持ちになりました。

秋の木の実が入った箱を見て、Eちゃんが「これ何？」と聞きました。私が「樅の実だよ。」と答えたらFちゃんとGちゃんがきて「じゃあ、種ってこと？だったら植える？」と話し始めました。私が「プランターがいればこれを使って。」と何も入っていないプランターを出すと、「土がいるじゃん！」「スコップで入れようよ。」「これ砂場の土やん！」など3人の話し合いが始まりました。私が、花を植えるための土があることと、手押し車を使って土を運ぶとたくさん土が運べることを伝えると3人は「わかった！」と自分達で必要なものを揃えて、2つのプランターが土でいっぱいになるまで何往復もしていました。種まきの準備が整うと、「こっちはこの種を植えよう。」とEちゃん。「こっちはこの小さいのを植えよう！」とFちゃん。

ん。3人で樅と松の種をまきました。芽が出てくるのが楽しみです。登園すると、すぐに友達を誘って園庭に飛び出していく子ども達。元気いっぱい生活の中でも、植物の小さい変化に気がついたり、大切に育てたいと思ったりと、自然を近くに感じながら生活していることを嬉しく思います。不思議に思ったことを考えたり、やってみようと思ったことを試してみたりする子どもたちの姿に、優しさや力強さを感じた秋でした。（中原）

お兄ちゃん・お姉ちゃんとのつながりいっぱい☆（星組）



今年度星組さんは、小学生・中学生・大学生と様々な校種のお兄さんお姉さんと楽しみながらかかわっています。今回は、10月の一年生との交流を紹介したいと思います。

10月下旬に、小学生から秋の自然物を使ったお店屋さんやゲームに招かれて楽しく遊びました。ドングリのコマ回しやマツボックリの玉入れなどいろいろな遊びがあり、ルールや遊び方をお兄さんお姉さんにやさしく教えてもらい喜んでいてほほえましく思いました。その後、一年生を遊戯室に招いて、自分たちのつくったお店を楽しんでももらいました。

魚つりのお店準備では、一年生が楽しめるように図鑑を見ながらいろいろな種類や形の魚をつくっていました。「シーラカンスおったらおもしろいんじゃない？」「いいね。深海の魚も入れようや。」と友達のアイデアを受け入れる姿が見られたり、「僕魚かくからK君クリップつけて。」「じゃあ私はH君がかいた魚に色塗るね。」など、友達と協力しながら自分の役割を探る姿が見られました。友達と思いを伝え合いながらお店を進めようとする姿に成長を感じました。



当日は、それぞれのお店をスタンプラリーで回れるように工夫したところ、一年生がそれぞれのお店をニコニコ笑顔で周ってくれました。時間いっぱい楽しんでもらったという喜びや満足感が、子どもたちの自信になったのではないかと感じました。

交流を重ねていく中で、“一年生のために”という思いをもってお店屋さんをつくる姿がたくさんありました。直接かかわっていない時間でも、子どもたちは一年生のことを思いながらお店づくりに取り組み、子どもたちにとって、“小学生”という存在が身近なものになっているのだと感じました。また、一年生にお店を楽しんでもらった子どもたちは、お母さんたちにも来てもらいたいという気持ちになり、PTAバザーの日にお店屋さんを開きました。子どもたちの思いがたくさんつまったお店はいかがだったのでしょうか？日頃見られない姿も見ることができたのではないかと思います。

星組での生活も残り少なくなってきました。一日一日の遊びを見守りながら、子どもたちの成長を支えていければなと思っています。（福田）

【編集担当：高橋】